

学部長巻頭言

『日本福祉大学スポーツ科学論集』創刊にあたって

藤田 紀昭

日本福祉大学 スポーツ科学部長

日本福祉大学スポーツ科学部開設（2017年4月1日）に伴い、この度『日本福祉大学スポーツ科学論集』を創刊することとなりました。本学部ではスポーツを通して地域の活性化や共生社会、生涯にわたる健康で心豊かな生活、持続可能な社会保障制度といった「ふくし」社会を実現することを目的の一つとしています。自発的な運動の楽しみを基調とする文化的特性を持つスポーツだからこそ、多くの人々が継続的に親しみ、社会発展に寄与することが可能だという考えに基づいています。

また、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵（かん）養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。」（スポーツ基本法前文）とあるように、スポーツは健康や体力を維持、向上させるものとして、人々を成長させると同時に社会的紐帯を形成し、豊かな社会生活を実現させるものとして期待されています。さらに、今日では、スポーツツーリズムやスポーツマーケティング、エンターテインメント化させたスポーツイベントなどビジネスとしてのスポーツの可能性も追求されています。

一方でスポーツを取り巻く環境や人々のスポーツに対する視線には厳しいものもあります。メガスポーツイベント開催の是非、スポーツによる環境破壊、スポーツ界に根深く残る暴力やハラスメント、ドーピング問題などはスポーツと社会の健全な発展に暗雲をもたらしています。

本学部に課された社会的責任を果たすとともに、スポーツに対する期待に応え、山積する課題解決を図るためには、スポーツに関わる自然科学、人文・社会科学における各種理論を深め、精度を高めると同時に、実験、実践研究により実証を積み重ねていくことが必要です。それこそが「スポーツ科学」といえます。「スポーツを360°科学する」が本学部のキャッチフレーズになっています。スポーツを多角的にとらえ、スポーツおよびスポーツ科学の発展と本学部のミッションの実現に本論集が寄与し、本学部関係者のみならず、スポーツに関心のある多くの人達の日常的な研究活動を刺激することを願って刊行の言葉といたします。